

23年度事業報告書

I. 組合の事業活動の概況に関する事項

(1) 事業年度の末日における重要な活動の内容

主要な取り扱い事業種目等

事業種目	主な事業品目等
医療事業	病院（臨床研修指定病院 一般311床 医療療養病床40床） 診療所（内科・歯科） 訪問看護 健康診査
福祉事業	介護医療院 訪問介護 訪問看護 訪問リハビリテーション 通所リハビリテーション 通所介護 短期入所療養介護 居宅療養管理指導 福祉タクシー 居宅介護支援 介護タクシー 住宅型有料老人ホーム・高齢者有料賃貸住宅 サービス付き高齢者向け住宅 受託事業（松江市高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業）
医療福祉等附帯事業	院内売店 患者用駐車場

(2) 事業の経過及びその成果並びに対処すべき重要な課題

★松江保健生協の2023年度決算の概要

23年度は新型コロナウイルス感染症の分類が2類から5類に引き下げられましたが、感染者数の増減を繰り返すたびに事業や運動に影響を及ぼしました。経営状況は、経常剰余金が▲1億2,046万円となり、予算に対し2億6,149万円の未達成となりました。

事業収益は79億5,317万円で予算92.2%、6億7,340万円の未達成。事業費用は82億9,712万円で予算96.8%、2億6,711万円減となりました。収益・費用とも予算を下回りましたが、収益未達成がより大きくなった状況です。

事業剰余金は▲3億4,395万円となりましたが、補助金収入が1億9,329万円（うち新型コロナ関連補助金1億3,401万円）あり、経常剰余金で▲1億2,046万円、当期剰余金で▲1億5,062万円（税引き後）となりました。

2023年度も事業所ではクラスター発生や職員への感染拡大がありました。コロナ陽性患者の入院や入所受け入れ、発熱外来の実施、増加する救急搬入、ワクチン接種など地域の要求に応えながら事業を継続しました。

事業分野別にみると主な増収分野は入院部門と健診部門です。入院部門はコロナ専用病床27床を解消したこともあり前年比102.9%、1億2,807万円増収となりました。健診部門は昨年比103.7%、979万円の増収となりました。主な減収分野は法人全体の外来部門が前年比96.2%、▲5,990万円、通所・居宅サービス部門で前年比92.2%、▲2,567万円となりました。

事業所グループ別では、学園福祉センターが315万円の黒字決算となりましたが、生協病院グループ、介護医療院虹グループ、東出雲診療所グループ、歯科クリニック、幸町福祉センターの5事業所グループは赤字決算となりました。

新型コロナ補助金の1億3,401万円（うち、空床確保等の収入補填9,786万円、ワクチン接種を含む感染対策費用補填3,126万円、その他488万円）については、事業外収益の補助金収入としました。

【各事業所グループの経営概況】

	事業収益	予算比	前年比	経常剰余
生協病院グループ	64億 1,719万円	92.6%	100.9%	▲4,956万円
介護医療院虹グループ	11億 7,621万円	94.0%	98.7%	▲757万円
東出雲診療所グループ	8,361万円	76.2%	102.0%	▲3,302万円
歯科クリニック	1億 2,401万円	87.6%	107.6%	▲1,083万円
学園福祉センター	1億 1,446万円	91.4%	93.5%	315万円
幸町福祉センター	3,911万円	57.1%	79.8%	▲2,263万円
合計	79億 5,317万円	92.2%	100.5%	▲1億 2,046万円

*各事業所の事業収益には、グループ間の取引を含んでいます。また本部を除いています。

★患者・利用者数 入院・入所部門、健診部門、歯科は前年を上回る。介護事業はサービス別ではほとんどが前年を下回る。

生協病院入院は、病床稼働 314.4 床/日（前年差 15.4 人）。介護医療院虹の稼働 173.3 床/日（前年差 15.4 人）となりました。

外来患者数は 1 日当たり患者計画に対して、生協病院外来（救急、透析など）は、救急搬入数は昨年比 108.8%となり増加しましたが、患者数は 59.6 人/日（前年差▲6.0 人）となりました。ふれあい診療所は 306.2 人/日（前年差▲6.0 人）、クリニック虹は 9.7 人/日（前年差▲0.4 人）、東出雲診療所は 15.7 人/日（前年差±0.0 人）、歯科クリニック 57.2 人（前年差 4.0）、のぞみ訪問看護（医療）14.6 人/日（前年差▲0.1 人）となりました。

居宅介護事業所利用者数は、サービス別では、ヘルパー3 事業所計 83.8 人/日（前年差▲3.1 人）、デイサービス 6 事業所計 105.2 人/日（前年差▲6.8 人）、通所リハビリ 1 事業所 10.5 人/日（前年差▲2.4 人）、訪問看護（介護）14.9 人/日（前年差▲1.0 人）、訪問リハビリ 12.9 人/日（前年差 0.7 人）となりました。

また、ケアプラン作成件数は 4 事業所で 679 件/月となり、前年に対して 12.8 件/月増えました。

【一日あたり患者・利用者数】

	入院・入所	外来	通所	ヘルパー	訪問看護 /リハ	健診	高齢者 住宅
	人/前年比	人/前年比	人/前年比	人/前年比	人/前年比	人/前年比	人/前年比
生協病院グループ	314/ 105%	365/96%	18/ 97%	28/99%	20/91%	49/ 102%	* *
虹グループ	173/102%	10/ 96%	50/ 90%	27/97%	13/106%	* *	41/ 87%
東出雲診療グループ	* *	16/ 100%	15/ 106%	* *	* *	1/71%	* *
歯科クリニック	* *	57/108%	* *	* *	* *	2/113%	* *
学園福祉センター	* *	* *	20/ 93%	28/96%	* *	* *	* *
幸町福祉センター	* *	* *	12/ 78%	* *	* *	* *	* *
合計	487/ 104%	463/98%	116/ 93%	84/ 97%	33/97.2%	52/ 100%	41/ 86%

*訪問看護の医療保険利用者 15 人/日は外来に含む。ケアプランは月平均 679 件

1 日患者・利用者数は各事業所の利用日に基づく。小数点以下は四捨五入

★事業費用 82 億 9,712 万円（予算比 96.8%/前年比 99.2%） 予算差▲2 億 6,711 万円

予算を超過した項目では、薬品費が予算比 103.4%、1,334 万円の超過となり、給食材料費は物価高騰により予算比 106.6%、969 万円の超過となりました。

	予算差	予算比	前年比
薬品費	1,334 万円	103.4%	103.4%
診療材料費	▲2,552 万円	96.3%	100.2%
給食材料費	969 万円	106.6%	113.9%
人件費	▲1 億 8,818 万円	96.5%	97.4%
委託費	▲3,329 万円	95.1%	96.9%
減価償却費	▲2,257 万円	94.1%	106.2%
物件費	▲2,077 万円	97.5%	102.9%

薬品費については、コロナ治療薬は前年に対して▲1,200 万円となった反面、購入額が増加した薬品があり、予算に対し 103.4%となりました。診療材料は前年比 100.2%と微増したものの、予算に対しては 96.3%となりました。給食材料は物価高騰の直接的な影響を受けました。

人件費は医師、看護師、介護福祉士等の応募者が少ないことと、収益に見合った賞与調整を行い予算比 96.5%となりました。委託費は E S C O 事業契約打切りや C T 更新に関わり保守料金が減少したことなどから、予算比、前年比とも下回りました。減価償却費は血管造影装置の更新を先送りにしたことが主な要因で予算比 94.1%となりました。物件費は光熱費、出張などの研究研修費、職員紹介手数料などの増加で前年比 102.9%となったものの予算比は 97.5%に止まりました。

経営指標の一つである人件費＋医療福祉材料費＋委託費の収益比計は 89.5%となり、適正値の上限 84%未満を上回っています。収支のバランスを適正化していかなければなりません。

★「連携」「断らない」を進め、地域の医療・介護要求に应运てきました

連携強化の観点では数年ぶり対面で開業医懇話会や高齢者施設懇談会を開催し、顔の見えるつながりで連携を強めました。今後は法人管理者会議を開催し、法人内の医療介護連携強化を足掛かりに、法人外の事業所との連携を強めていきます。

また、「断らない」を合言葉に、増加する救急搬入の受入れや無料低額診療事業の取組み、最期まで本人の生き方が尊重される医療・介護を実現するためアドバンス・ケア・プランニングの推進や自宅で最期を迎える方への訪問支援など“いのち”に向き合った医療・介護を実践してきました。

これらは他の医療機関や全国の医福連事業所にも誇れる取組みであり、法人理念とマッチした事業です。引続き 24 年度も「連携」「断らない」を進め、地域の医療・介護要求に应运、同時に経営改善を進めていきます。